

アスベスト対策 考える会が発足

建設、解体業者ら

アスベスト(石綿)による健康被害を減らそうと、県内の建設会社や不動産会社、解体業者らが「宮城・仙台アスベスト安全対策を

考える会」を発足させた。

簡易診断を無料で実施するほか、アスベストに関する情報提供に力を入れる。

考える会が相談窓口となり、公的資格の「建築物石綿含有建材調査者」を派遣して目視による簡易診断を促す。詳しい調査を希望す

る場合は、国の助成制度の申請も無料で代行する。

吹き付けアスベストは昭和40～60年代に建てられたビルなどに残っている例が多いという。考える会はアスベストが残留する県内の建築物の把握を進め、データベース化にも取り組む。

6日にはアスベスト含有調査推進セミナーを仙台市内で開いた。約50人が参加し、アスベストに関連する法律や国の助成制度などについて学んだ。

考える会の庄子賢一代表世話人は「アスベストへの正しい理解を広げながら、助成制度の周知を図りた

い」と話す。連絡先は考える会事務局090(2)2027-1441。

アスベスト濃度 通常と同レベル

県被災地調査

県は、東日本大震災の被災地で実施したアスベスト(石綿)のモニタリング調査で、アスベストを含む繊維数濃度は通常の大気環境と同レベル(1立方メートル当たり最大0.056本)だったと発表した。6月14～26日、被災建築物の解体作業などが見込まれる石巻市4地点、気仙沼市2地点を調べた。